



「暮らし便りNo.17」では、「父の日、母の日」の由来についてご案内いたしました。これらは国外から輸入された記念日ですが、「敬老の日」は日本独自の記念日だをご存知でしょうか？今号では、敬老の日まつわのお話を中心にご案内いたします。



敬老の日って？

敬老の日は、「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」事を趣旨としています。（祝日法、昭和23年7月20日法律第178号 2条より）

2002年（平成14年）までは毎年9月15日を「敬老の日」としていましたが、前年に実施された祝日法改正（ハッピーマンデー制度）を受け、2003年（平成15年）からは9月の第3月曜日となりました。



●こぼれ話●

「敬老の日」を、15日から第3月曜日に移すにあたり、高齢者団体から反発が相次いだため、2001年（平成13年）に老人福祉法第5条を改正して**9月15日を「老人の日」、同日から1週間を老人週間**としました。

敬老の日の始まり

「敬老の日」は、兵庫県多可郡野間谷村（現在の多可町八千代区）の「としよりの日」という敬老会が始まりです。「としよりの日」は、1947年（昭和22年）に、門脇政夫村長（後の兵庫県議会議員）と山本明助役によって提唱されました。

「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村づくりをしよう」と、農閑期に当り気候も良い9月中旬の15日を「としよりの日」と定め、村では敬老会が開かれました。

1950年（昭和25年）からは兵庫県全体で行われるようになり、後に全国に広がりました。

その後「としより」という表現は良くないということで1964年（昭和39年）に「老人の日」と改称されました。その翌年、野間谷村からの政府への繰返しの働きかけもあり、国民の祝日「敬老の日」に制定されました。このため「母の日」や「父の日」のように日本国外から輸入されたような記念日と異なり、「敬老の日」は日本独自の記念日となっています。

●重陽の節句●

上記で「敬老の日」は日本独自のものと述べましたが、似た主旨のもの他にも存在します。

桃の節句や端午の節句、七夕等で馴染みの「五節句」の重陽（ちょうよう）がそれにあたります。

「節」とは唐時代の中国の暦法で定められた季節の変わり目のことで、季節の旬の植物から生命力をもらい邪気を払う目的で始められました。この中国の暦法と日本の農耕を行う人々の風習が合わさり、定められた日に宮中で邪気を払う宴会が催されるようになり「節句」といわれるようになったそうです。

重陽は旧暦の9月9日「菊に長寿を祈る日」とされています。



敬老

敬老の日のプレゼントにぴったり♪
「2013秋の歩行支援セール」
2013年8月20日（火）より開始！

他多数ご用意しています♪



ウェルキャリア/PB



らくらくスリムW/PB



ノーブル/PB

